

## ショートコメント vol.44 (2015年9月10日)

テーマ：中国経済の減速懸念による、各地域の景況感への影響

～地域ごとのバラつきが大きいほか、近畿と東海では傾向の違いが目立つ～

(中国経済の減速懸念による景況感への影響)

中国経済の減速懸念が強まるなか、金融市場では株価や為替の変動が激しくなっているが、地域の景況感にも影響が出始めている。

直近で発表された、内閣府「景気ウォッチャー調査」の8月調査結果では、先行き判断DIの大幅な低下がみられた(図表1)。全国では3.7ポイントの低下、近畿は5.3ポイントが低下している。他の地域も同様に下がっているが、近畿の低下幅は最も大きなものとなった。

(反応の大きさは地域ごとに異なる)

景気ウォッチャー調査では、街角景気の判断に加え、その判断理由(コメント)も公表されているが、中国関連のコメントの分布をみると、地域ごとのバラつきが大きい(図表2)。

大都市圏は元々母数が多いことから、コメント数だけでなく、総コメントに対する割合もあわせてみると、特に近畿の多さが目立つ。輸出先としての依存度が高いのに加え、インバウンドの急増に対する貢献度も高いなど、関西と中国の関係は他地域以上に強いものがある。その結果として、不安感も高まりやすいとみられる。

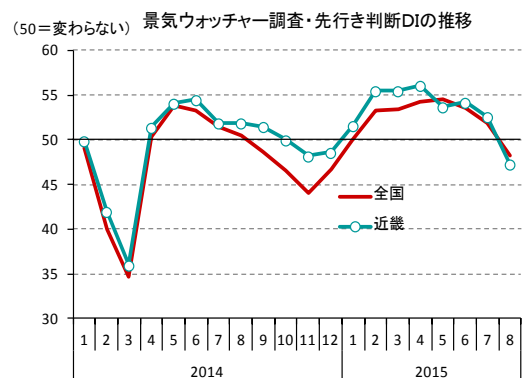
(近畿と東海では傾向が大きく異なる)

一方、各地域のコメントには傾向の違いがはっきりみられる。中国関連のコメントを、家計動向関連と企業・雇用関連に分けた場合、特に近畿と東海とではその違いが大きい(図表3)。

まず、近畿では家計動向が大半を占めており、そのなかでも、インバウンドへの影響を懸念する百貨店やホテルなどのコメントが中心となっている。

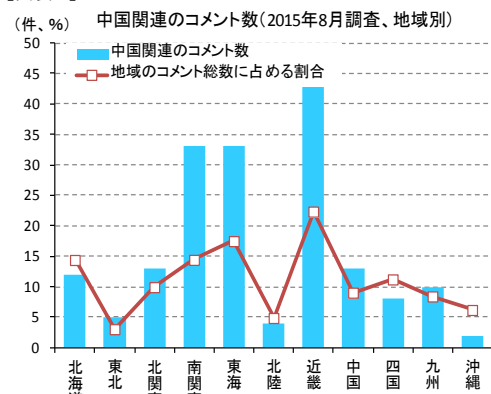
一方、東海は企業・雇用関連の多さが目立ち、特に製造業を中心とした輸出面や資源相場など

【図表1】



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

【図表2】



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

※先行き判断に関するコメントのうち、中国経済に言及のあったものを地域ごとに集計

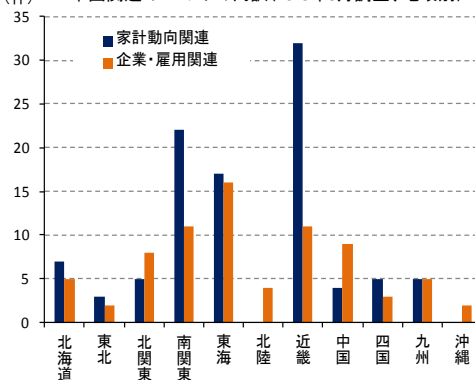
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

への影響を懸念する声が多い。

これらの結果がすべてを示したものではないにせよ、地域ごとに傾向の違いがあることは見過ごせない。今後の中国経済の減速による各地域への影響を考える上で、一つの判断材料となることは間違いないとみられる。

【図表 3】

(件) 中国関連のコメントの内訳(2015年8月調査、地域別)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

※先行き判断に関するコメントのうち、中国経済に言及のあったものを地域ごとに集計

本件照会先:大阪本社 荒木秀之  
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。